

施設概要

(令和5年4月1日現在)

施設名 学習等供用施設 (通称：富士センター)		開館時間 公民館業務 午前9時～午後9時 児童館業務・図書館業務・老人憩の家 午前9時～午後5時 火・木 午前8時30分～正午 出張所業務 土 午前8時30分～午後1時 土 午後2時～午後5時15分	
所在地	〒270-1432 白井市富士239-2	併設施設	児童ルーム・図書室・老人憩の家・出張所・第三小学校区地区社会福祉協議会・第三小学校区まちづくり協議会
TEL	047-446-1911	FAX	047-446-2677
メール	fuji270-1432@aurora.ocn.ne.jp		
休館日	月曜日・国民の祝日 12月29日～翌年1月3日	駐車場	27台（内1台障害者専用） 臨時駐車場15台
職員構成 R5年4月現在	正職 センター長1名 事務職2名 児童厚生員1名 （非）事務職2名 児童厚生員1名 司書3名 用務員2名 夜間管理2名 合計14名		
貸出施設	1時間あたりの施設使用料（社会教育認定団体は2分の1）		
	施設名	定員	9:00～21:00 付帯設備
	集会室	20名	350円 長机10台・椅子30脚
	休養室（2）	36名	350円 座卓12台・姿見2枚・座布団50枚 長机15台・椅子20脚
	調理室	24名	720円 調理台4台・丸椅子24脚・冷蔵庫2台 電子レンジ2台・ガス炊飯器1台
	視聴覚室	20名	780円 長机15台・椅子40脚・ピアノ1台 テレビ1台・ビデオデッキ1台
	大集会室	100名	970円 長机36台・椅子150脚 移動ステージ1セット・卓球台5台
貸し出し 可能備品	CDラジカセ・机・椅子・テント・音響システム・卓球セット・バドミントンセット 電子ピアノ		

令和4年度 公民館等団体別利用状況 (学習等供用施設富士センター)

種別	青少年		成人		女性		高齢者		その他		個人		合計	
月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	13	145	74	635	30	284	1	14	21	248	9	49	148	1,375
5	10	100	86	750	29	250	0	0	16	275	12	61	153	1,436
6	10	138	85	648	36	310	0	0	34	451	18	73	183	1,620
7	15	212	82	666	32	278	0	0	40	860	20	115	189	2,131
8	11	140	54	458	18	156	0	0	23	376	17	88	123	1,218
9	10	127	65	566	32	329	0	0	40	677	4	23	151	1,722
10	19	311	77	644	34	315	0	0	35	767	12	58	177	2,095
11	11	154	66	601	28	265	0	0	36	616	16	88	157	1,724
12	13	166	63	545	33	325	0	0	31	848	9	64	149	1,948
1	14	233	57	530	27	237	0	0	36	439	9	47	143	1,486
2	9	122	57	535	29	273	0	0	31	450	15	88	141	1,468
3	9	139	60	580	34	344	0	0	46	571	11	73	160	1,707
合計	144	1,987	826	7,158	362	3,366	1	14	389	6,578	152	827	1,874	19,930

令和4年度部屋別利用件数・利用人数

部屋名	利用件数(件)	利用人数(人)	年間利用率(%)
集会室	419	2,975	26.68
休養室2	389	3,632	29.57
調理室	55	388	6.54
視聴覚室	201	1,780	14.14
大集会室	810	11,155	59.74
合 計	1,874	19,930	

令和4年度 学習等供用施設 事業報告

●白井市が目指す将来像（第5次総合計画基本構想から）

「ときめきと みどりあふれる 快活都市」

●目指す将来像を実現するために（第5次総合計画後期基本計画から抜粋）

戦略1「若い世代定住プロジェクト」

- ・ゆとりある暮らしを感じるまちづくり
- ・働く場を生み出すまちづくり
- ・子育てしたくなるまちづくり

戦略2「みどり活用プロジェクト」

- ・「かかわれる農」のまちづくり
- ・みどりを育み活かすまちづくり

戦略3「拠点創造プロジェクト」

- ・都市拠点がにぎわうまちづくり
- ・地域拠点でつながる健康なまちづくり
- ・拠点を結ぶまちづくり

これらのプロジェクト（まちづくり）を実現するため、①「つどう」②「まなぶ」③「むすぶ」④「つくる」⑤「さがす」の公民館の代表的な5つの機能を生かした事業展開を行いました。

1. 運営方針

（1）全体の運営方針

地域住民が集まり学習等供用施設を運営する為に立ち上げた団体として、地域とのつながりを生かし、地域住民のニーズを促えた学習や健康増進、趣味などの講座の開催や地域団体の育成・支援、「子どもの居場所」、「高齢者の居場所」、「地域の居場所」として気軽に集える場を提供をとおして地域連携の和を大きく広げ、人との交流と支え合いを育んでいく。

（2）分野別方針

	運営目標
家庭教育 (1)	①育児や子育てについて学び、悩みやふあいを解消する場を提供する。 ②子どもたちの視野を広げ、社会性や協調性を育む。 ③育児の悩みや不安等を気軽に話し合える子育て世代の交流の場を提供する。 ④講座等を通して親子のコミュニケーションを深める。
青少年教育 (2)	①学習・体験活動を通して視野を広げ、「知る」楽しさを学ぶ。 ②年齢にとらわれない子どもたちによる地域交流の場を提供する。 ③講座等を通して様々な人との交流を促し、社会参加の促進に努める。 ④子どもたちが日常生活の基本を体験し、自立する力を身につける。

成人教育 (3)	①講座等を通して同じ趣味の人との交流の場を提供する。 ②生涯学習の楽しさを知る、世代を超えた学習の場を提供する。 ③健康の保持や生きがいづくりをサポートし、健康寿命の延伸を図る。 ④自然に親しむ場を提供し、緑ある住環境の保全と推進を図る。
団体育成 (4)	①地域団体の活動をサポートし、団体の育成や連携を図る。 ②市民や各種団体等の交流を推進し、活動の活性化を図る。 ③より多くの市民が集う機会を提供し、地域の絆を深める。

(3) 令和4年度 重点に実施した項目（講座・事業など）

- ・市民の知識欲や生きがいづくりに沿った講座等を開催するとともに、地域の絆を深めていく。
- ・地域団体との連携による事業を実施し、団体の活性化、人と人との交流と支え合いを育む。

2. 公民館 講座等実施報告

(1) 学習講座事業

対象	学級・講座名		回数	参加人数
家庭教育 (1)	ぴよぴよタイム	①②③	10 回	延べ139 人
	喫茶室「みるく」	①②③	8 回	延べ188 人
	ママハピタイム	①②④	1 回	4 人
	リズムベビーマッサージ	①②④	1 回	14 人
青少年教育 (2)	夏休みチャレンジ講座			
	・ 絵画教室(全2回)	①②	2 回	延べ18 人
	・ プログラミング教室(全2回)	①②	1 回	12 人
	・ 工作教室	①②	1 回	8 人
	フラワーアレンジメント教室	①②	1 回	9 人
	冬休み書初め練習会	①②	2 回	延べ20 人
	詰将棋にチャレンジ	①②③	1 回	2 人
	将棋体験教室(全3回)	①②③	1 回	5 人
	山田敦幹将棋教室	①②③	1 回	10 人
	囲碁体験教室(全3回)	①②③	1 回	4 人
	土器っと古代	①②	1 回	8 人
	防災教室	①②③④	1 回	13 人

成人教育 (3)	クッキング教室	①②③	2 回	延べ20 人
	フラワーアレンジメント教室	①②③	1 回	9 人
	終活講習会	①③	2 回	延べ9 人
	家庭菜園・園芸教室	①②③④	2 回	延べ16 人
	ヨガ教室(全2回)	①②③	2 回	延べ19 人
	薬膳茶&ヨガ	①②③	1 回	8 人
	珈琲&ヨガ	①②③	1 回	12 人
	スマホ教室	①②	3 回	延べ57 人
	シュートレン教室教室	①②③	1 回	12 人
	普通救命教室	①②③	1 回	6 人
	カービング教室	①②③	1 回	6 人
	茶道体験教室	①②③	1 回	8 人
団体育成 (4)	世代間交流(グラウンドゴルフ)	①②③	1 回	28 人
	富士センター音楽祭	①②③	1 回	95 人
	富士クリスマスフェスタ	①②③	1 回	189 人

(2) 講座以外に行った事業

- ・トイトイランド
- ・ハッピーハロウィーン
- ・クリスマス会
- ・体育館で遊ぼう
- ・センターフェスティバル
- ・美化交流会
- ・音楽鑑賞会
- ・憩いのサロン
- ・ふじっこダイニング(実施せず)
- ・シニア食堂(実施せず)
- ・子ども居場所作り

(3) 情報の提供

- ・開催事業情報等を掲載したセンターだより及び児童ルームだよりの発行
- ・市広報誌へのセンター開催事業情報等の掲載
- ・センターホームページへの開催事業情報等の掲載
- ・開催事業個別宣伝ポスターの作製
- ・センターだより、ポスター等の域内自治会回覧、小学校児童への配布、近隣店舗等への掲示

(4) 施設の提供

- ・団体等に学習の場として施設を提供
- ・地域の会合や話し合いの場として施設を提供
- ・ロビーにパーテーションを設置し、人数制限をしたうえで開放
- ・地域団体の交流事業等に施設備品の貸し出し
- ・中高生に学習の場を提供

(5) 「withコロナ」「afterコロナ」時代に向けた対応

- ・職員には、出勤前に体温測定、体調確認を奨励し、勤務中はマスクを着用
- ・玄関に体温測定器及び手指消毒液を設置、入館時に連絡先の記載、マスクの着用、体温測定、手指の消毒を奨励
- ・施設利用者には、体温測定器及び備品消毒液を貸与し、参加者の健康チェック、部屋の換気、使用後の備品消毒、参加者名簿の提出を依頼
- ・窓口や事務室内に悲惨防止用シーとを設置
- ・午前、午後、夕方の3回、職員による共有スペースを中心とした消毒作業を実施
- ・ロビー、児童ルーム、図書室、老人憩の家等の主な部屋には空気清浄器を設置
- ・自主事業の開催時には、ソーシャルディスタンスの確保、換気等の感染予防対策を実施
- ・感染状況を見極めつつ、定員制限などの状況に即した感染予防対策を実施

講座・学習プログラム

講座名	びよびよタイム		
対 象	乳幼児親子		
募集人数	各 8 組	参加人数	延べ139人
事業の課題と目標			
課 題			
目 標			
・ 生後から未就園児が参加できる講座が少ない。 ・ 相談先がなく、子育てに不安を抱える保護者や友だちのいない子どもが増えている。			
目 標			
・ 普段とは違う環境で参加者同士の交流を図り、ネットワーク作りを支援する。 ・ 育児の悩みや不安を解消し、親自身の成長や子どもの視野を広げる。			
学習期間	令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月		回数 10回
学習場所	児童ルーム		
予 算	総額：	40,000 円	総額：
	※うち参加者負担金	0 円	※うち参加者負担金
	内訳：講師料	0 円	内訳： 講師料
	その他事業費	40,000 円	その他事業費
講 師	児童厚生員		
事業参加者への配慮等			
・ 季節を捉えた講座内容を考え、参加しやすいように心掛けた。 ・ 初めて参加した親子が不安にならないように声掛けした。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・ 参加者同士の交流を深め、友だち作りのお手伝いできた。			
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	4月20日	・ 親子体操、手遊び ・ こいのぼり製作 参加人数 乳幼児8人、保護者8人	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。
2	5月18日	・ 親子体操、手遊び ・ さかなつり 参加人数 乳幼児7人、保護者7人	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。
3	7月20日	・ 親子体操、手遊び ・ うちわ作り、スーパースクールすくい、ボールプール 参加人数 乳幼児8人、保護者8人	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。
4	9月21日	・ 親子体操、手遊び ・ アンパンマンに変身して運動会 参加人数 乳幼児7人、保護者7人	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。
5	10月19日	・ 親子体操、手遊び ・ ハロウィーンゲーム（パンキンシューター、スパイダーショット、缶積み） ・ ハロウィーンの背景で写真撮影 参加人数 乳幼児7人、保護者8人	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
6	11月16日	・親子体操、手遊び ・指スタンプ遊び 参加人数 乳幼児4人、保護者4人	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。
7	12月21日	・親子体操、手遊び ・トナカイのバック作り ・サンタさんのスケッチブックシアター ・サンタさんと記念撮影 参加人数 乳幼児10人、保護者10人	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。
8	1月18日	・親子体操、手遊び ・パネルシアター、紙芝居、絵本の読み聞かせ 参加人数 乳幼児1人、保護者1人	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。
9	2月15日	・親子体操、手遊び ・牛乳パックと手作りの毛糸ポンポンでワンワン ・植木鉢作り 参加人数 乳幼児10人、保護者10人	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。
10	3月15日	・親子体操、手遊び ・クマちゃんのウクレレ作り ・ウクレレ合奏会 参加人数 乳幼児7人、保護者7人 参加人数	児童厚生員	親子のふれあい、参加者同士の交流をはかる。

講座・学習プログラム

講座名	喫茶室「みるく」			
対 象	乳幼児親子			
募集人数	4、6月・・・20組	7月以降・・・30組	参加人数	延べ188人
事業の課題と目標				
課 題	・親子で同じ時間を共有する機会が減少している。 ・地域の人との関りが希薄している。			
目 標	・地域の人100人と知り合いになる。			
学習期間	令和4年4月～令和5年2月		回数	8回
学習場所	大集会室			
予 算	総額： ※うち参加者負担金 内訳：講師料 その他事業費	40,000 円 0 円 0 円 40,000 円	決 算 ※うち参加者負担金 内訳：講師料 その他事業費	総額： 30,000 円 0 円 0 円 30,000 円
講 師				
事業参加者への配慮等				
・遊びの中で子どもと一緒に楽しみながら親子や保護者同士の交流を図れるよう手助けをする。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・ボランティアと知り合いになる事で、センターの中だけでなく地域でも挨拶が出来るようになった。 ・地域で子育てを応援しているという安心感が持てた。				
備 考				
・白井第三小学校区社会福祉協議会と共催				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	4月1日	・手遊び ・ミニ運動会 参加人数 乳幼児9人、保護者5人 (ボランティア8人)	地区社協の みなさん	親子で過ごせる遊び方の習得、地域の の人との交流を深め、居場所を作る。
2	6月3日	・手遊び ・パネルシアター 参加人数 乳幼児7人、保護者7人 (ボランティア10人)	地区社協の みなさん	親子で過ごせる遊び方の習得、地域の の人との交流を深め、居場所を作る。
3	7月1日	・手遊び ・七夕遊び 参加人数 乳幼児23人、保護者21人 (ボランティア8人)	地区社協の みなさん	親子で過ごせる遊び方の習得、地域の の人との交流を深め、居場所を作る。
4	9月2日	・手遊び ・リズム遊び 参加人数 乳幼児10人、保護者9人 (ボランティア7人)	地区社協の みなさん	親子で過ごせる遊び方の習得、地域の の人との交流を深め、居場所を作る。
5	10月7日	・手遊び ・ハロウィーン遊び 参加人数 乳幼児16人、保護者12人 (ボランティア10人)	地区社協の みなさん	親子で過ごせる遊び方の習得、地域の の人との交流を深め、居場所を作る。

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
6	11月4日	・手遊び ・お芋ほり遊び 参加人数 乳幼児8人、保護者7人 (ボランティア10人)	地区社協の みなさん	親子で過ごせる遊び方の習得、地域の の人との交流を深め、居場所を作る。
7	12月2日	・手遊び ・クリスマスカード作り 参加人数 乳幼児18人、保護者15人 (ボランティア9人)	地区社協の みなさん	親子で過ごせる遊び方の習得、地域の の人との交流を深め、居場所を作る。
8	2月3日	・手遊び ・節分ごっこ 参加人数 乳幼児11人、保護者10人 (ボランティア10人)	地区社協の みなさん	親子で過ごせる遊び方の習得、地域の の人との交流を深め、居場所を作る。

講座・学習プログラム

講座名	ママハビタイム			
対 象	市内在住の子育て中の母親			
募集人数	8人	参加人数	4人	
事業の課題と目標				
課題				
・ コロナ禍でマスクをした生活は顔の表情筋を使わなくなり、暗い表情になってしまう。				
・ 核家族が増え、1人で子育てをする母親が多い。				
目 標				
・ 顔の筋肉をストレッチや耳つばマッサージで豊かな表情を取り戻す。				
・ 子育てを頑張っている母親にリラックスをしてもらう。				
学習期間	令和4年11月	回数	1回	
学習場所	休養室2			
予 算	総額：	10,000 円	総額：	9,110 円
	※うち参加者負担金	0 円	※うち参加者負担金	300 円
	内訳：講師料	5,000 円	内訳： 講師料	5,000 円
講 師	その他事業費	5,000 円	その他事業費	4,110 円
	ヨガ講師 KEIKO先生			
事業参加者への配慮等				
・ 保育付きにし、自分だけの時間を楽しんでもらった。				
・ 集中できるように他の参加者との配置を考慮した。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・ 講座前と後では明らかに顔の表情が変化していた。				
・ 普段、自宅でも出来るトレーニング方法を講師から教えてもらい、「続けていけそう」との声があった。				
備 考				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	11月30日	・ヨガの呼吸をしながら顔の筋トレをした後、それぞれの悩みのツボにシールを貼ってもらう。 参加人数 乳幼児1人、大人3人 自己負担金 100円	KEIKO先生	母親が笑顔でいれば子どももハッピーになれる。ママの不安を取り除いてあげる。

講座・学習プログラム

講座名	リズムベビーマッサージ			
対 象	生後2カ月から歩行前までの親子			
募集人数	8組	参加人数	7組14人	
事業の課題と目標				
課 題				
・初めての育児は母親が不安でゆとりがない。				
目 標				
・月齢に近い他の参加者や講師と交流を深め、育児への不安や疑問を解消する。				
・親子で目標を合わせ、歌を聴きながら沢山触れ合う事で絆を深める。				
学習期間	令和4年6月	回数	1回	
学習場所	休養室2			
予 算	総額：	10,000 円	総額：	5,000 円
	※うち参加者負担金	0 円	※うち参加者負担金	0 円
	内訳：講師料	5,000 円	内訳：講師料	5,000 円
	その他事業費	5,000 円	その他事業費	0 円
講 師	NPO法人日本子ども教育センターリズムベビーマッサージ認定講師 柏崎真紀子さん			
事業参加者への配慮等				
・母親がリラックスをしながら講師の話を聞けるように子どもの状況に目を配った。				
・泣き出した時は一緒にあやすなどサポート面を重視した。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・覚えたメロディーをアレンジして家でもマッサージ出来るようになった。				
・講座後に参加者同士で情報交換をし、有意義な時間を過ごした。				
備 考				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	6月24日	・母親同士が仲良くなれるゲーム ・マッサージがもたらす心身と心の効果についてのお話 ・音楽に合わせたマッサージ 参加人数 7組14人	柏崎先生	マッサージ方法やコツを覚える。 母親同士の交流を図る。

講座・学習プログラム

講座名	夏休みチャレンジ講座		
対 象	小学生		
募集人数	延べ４０人	参加人数	延べ３８人
事業の課題と目標			
課 題			
・子どもが造形的な見方、考え方を働かせる環境が少ない。 ・異学年と交流するきっかけが少ない。			
目 標			
・自ら考え、作品を作り上げる喜びを知ってもらおう。 ・学びに向かう力を培う。 ・作品に対する自分の見方や感じ方を深めることができるようになる。			
学習期間	令和４年７月～８月		回数
学習場所	集会室、休養室２		４回
予 算	総額：	65,000 円	総額：
	※うち参加者負担金	円	※うち参加者負担金
	内訳：講師料	20,000 円	内訳：講師料
	その他事業費	45,000 円	その他事業費
講 師	美術教師 桜井秋芳先生、電子工作研究会のみなさん、児童厚生員		
事業参加者への配慮等			
・楽しい雰囲気に参加できるよう心掛けた。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・自ら考え、作品を作り上げる喜びを味わえた。 ・他の参加者の作品を見て感想を言い合い、交流を図ることができた。 ・参加者は各自の目標を持ち集中して取り組むことが出来た。			
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	7月28日	「工作教室」 押し花石けんとバスボム作り 参加人数 8人 自己負担金 300円	児童厚生員	作品を作り上げ、達成感を味わう。
2	8月4日	「絵画教室」 ポスター絵画の基礎を学ぶ。 参加人数 10人	桜井先生	創造することの楽しさを知り、独自の感性を発揮させる。
3	8月5日	「絵画教室」 ポスター絵画の基礎を学ぶ。 参加人数 10人	桜井先生	創造することの楽しさを知り、独自の感性を発揮させる。
4	8月9日	「プログラミング工作教室」 パソコンでプログラミングして音と光を出す電子工作に挑戦する。 参加人数 12人 自己負担金 1000円	電子工作研究会 のみなさん	コンピューターの仕組みを理解する。自らプログラムし作品を作り上げ達成感を得る。
5	8月10日	「プログラミング工作教室」 パソコンでプログラミングして音と光を出す電子工作に挑戦する。 参加人数 12人 自己負担金 1000円	電子工作研究会 のみなさん	コンピューターの仕組みを理解する。自らプログラムし作品を作り上げ達成感を得る。

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
6	8月18日	「絵画教室」 ポスター絵画の基礎を学ぶ。 参加人数 8人	桜井先生	創造することの楽しさを知り、独自の感性を発揮させる。
7	8月19日	「絵画教室」 ポスター絵画の基礎を学ぶ。 参加人数 8人	桜井先生	創造することの楽しさを知り、独自の感性を発揮させる。

講座・学習プログラム

講座名	母の日フラワーアレンジメント教室			
対 象	小学生			
募集人数	10人	参加人数	9人	
事業の課題と目標				
課 題	・母の日のプレゼントを作る場所が少ない ・花と触れ合う機会が少ない。 ・母に感謝の気持ちを伝えたい。			
目 標	・自ら考え、作品を作り上げる喜びを知ってもらう。			
学習期間	令和4年5月	回数	1回	
学習場所	集会室			
予 算	総額：15,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳：講師料 5,000 円 その他事業費 10,000 円	決 算	総額：12,000 円 ※うち参加者負担金 5,000 円 内訳：講師料 6,000 円 その他事業費 6,000 円	
講 師	高橋かおり先生			
事業参加者への配慮等				
・楽しい雰囲気に参加できるよう声掛けをした。 ・手本を見せたり教えずぎると個性が失われるのでアドバイスは最小限にした。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・一人一人が工夫して個性的な作品を仕上げることが出来た。 ・達成感を味わう事が出来た。				
備 考	・当日欠席1人			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	5月8日	カーネーションでブードル型のアレンジメントを作る。 参加人数 9人 自己負担金 500円	高橋先生	作品を作り上げる楽しさを知る。

講座・学習プログラム

講座名		冬休み書初め練習会		
対 象		小学3年～6年生		
募集人数		各10人	参加人数	延べ20人
事業の課題と目標				
課題				
・小学生の冬休みの宿題でもある書き初めだが、自宅だと集中して書けない。				
目 標				
・集中力を高める				
・講師のアドバイスを基に改善点を確認しながら仕上げる。				
学習期間	令和4年12月		回数	2回
学習場所	大集会室			
予 算	総額：	15,000 円	総額：	10,000 円
	※うち参加者負担金	0 円	※うち参加者負担金	0 円
	内訳： 講師料	10,000 円	内訳： 講師料	10,000 円
	その他事業費	5,000 円	その他事業費	0 円
講 師	宮本志保先生、公民館職員			
事業参加者への配慮等				
・参加者が集中して書ける環境作りをした。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・課題を上手に仕上げることができた。				
・講師の声掛けもあり、意欲的に取り組むことができた。				
備 考				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	12月27日	冬休みの宿題でもある書き初めの練習 午前の部 参加人数 11人	宮本志保先生 公民館職員	書き初めを仕上げる
2	12月27日	冬休みの宿題でもある書き初めの練習 午後の部 参加人数 9人	宮本志保先生 公民館職員	書き初めを仕上げる

講座・学習プログラム

講座名	詰将棋にチャレンジ		
対 象	市内在住小学生		
募集人数	8人	参加人数	2人
事業の課題と目標			
課 題			
・将棋を始めたくても、難しくてよくわからない。 ・将棋の楽しみ方がわからない。 ・将棋をはじめてもなかなか勝てない。			
目 標			
・3手詰め詰将棋を解くことにより将棋がわかり、楽しめるようになる。 ・3手の読みができて、将棋が強くなる。			
学習期間	令和4年7月	回数	1回
学習場所 集会所			
予 算	総額：	15,000 円	総額：
	※うち参加者負担金	0 円	※うち参加者負担金
	内訳：講師料	0 円	内訳：講師料
講 師	その他事業費	15,000 円	その他事業費
	公民館職員1人		
	事業参加者への配慮等		
・3手詰め詰将棋という易しい、基本的な問題を出題して、子どもたちに自信をつけてもらう。 ・正解したらお菓子を出すことで、子どもたちのやる気を促す。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・3手詰め詰将棋が解けるようになり、将棋が楽しめて、強くなった。			
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	7月31日	3手詰め詰将棋に挑戦して、正解者にお菓子を与えることにより、やる気を促す。 参加人数 2人	公民館職員1人	3手先が読めるようになって、将棋が強くなる。

講座・学習プログラム

講座名 将棋体験教室(全3回)			
対 象 小学生以上の市民			
募集人数 10人		参加人数 5人	
事業の課題と目標			
課 題			
・将棋の楽しさ、奥深さを体験できる機会があまりない。			
・身近に指導できる人があまりいない。			
・将棋より他のゲームに関心が向いてしまう傾向にある。			
目 標			
・将棋が指せるようになり、将棋の楽しさ、奥深さを体験してもらう。			
・集中力、忍耐力、先を読む力、状況判断力を身につける。			
・将棋を通じて人間力を高める。			
学習期間 令和4年10月		回数 3回	
学習場所 2階休養室2			
予 算		決 算	
総額： ※うち参加者負担金 内訳： 講師料 その他事業費		総額： ※うち参加者負担金 内訳： 講師料 その他事業費	
20,000 円 0 円 20,000 円 0 円		20,000 円 0 円	
講 師 豊田さん、白井さん、公民館職員1人			
事業参加者への配慮等			
・将棋の基本を教え、基本的な指し方ができるように指導する。			
・勝つためのコツを教える(3手詰め詰将棋など)			
・実際に将棋を指して実践感覚を養ってもらう。			
事業の成果(課題や目標に対して)			
・将棋の基本を理解し、狙いのある手が指せるようになった。			
・将棋の楽しさ奥深さが体験でき、実践感覚が養い、楽しんでもらえた。			
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	10月8日	・実践を通じて、将棋の基本を指導した。 参加人数 5人	豊田さん 白井さん 公民館職員1人	実際に将棋を指すことにより、将棋の楽しさ、奥深さを体験してもらう。
2	10月15日	・実践を通じて、考え方の基本を指導し、また、詰将棋などで勝ち方のコツを習得させた。 参加人数 5人	豊田さん 白井さん 公民館職員1人	実際に将棋を指していく中で、勝ち方のコツを習得する。
3	10月22日	・将棋をより楽しんでもらえるよう、基本手筋や詰将棋を教え、将棋の面白さや奥深さを体験してもらった。 ・一手一手の意味を理解してもらったため、しっかき考えてもらい、最後に正解手を教えて、その意味が理解できるよう指導した。 ・勝つためには色々な戦略が必要なたため、戦法や効率的な戦い方の方法を教えた。 参加人数 5人	豊田さん 白井さん 公民館職員1人	ゲーム感覚で将棋を楽しんでもらう。 自分の力で考える習慣を身に付ける。 将棋に勝つために必要な戦略を覚えよう。

講座・学習プログラム

講座名	将棋元アマ名人山田敦幹さんによる自戦解説と指導対局			
対 象	小学生以上の市民			
募集人数	30人	参加人数	10人	
事業の課題と目標				
課 題				
・将棋愛好者向けの最高峰の将棋を体験する機会がない。				
・せっかく地域の誇りとなる著名人がいるのに、あまり知られていない。				
目 標				
・市内の将棋愛好者に最高峰の将棋を体験し、学んでもらう。				
・地域の誇りとなる著名人から学んでいただくことにより、次世代を担う子どもたちに夢と希望を与える。				
学習期間	令和4年10月	回数	1回	
学習場所	大集会室			
予 算	総額：35,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳：講師料 30,000 円 その他事業費 5,000 円	決 算	総額：47,817 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳：講師料 32,850 円 その他事業費 14,967 円	
講 師	将棋元アマ名人山田敦幹さん			
事業参加者への配慮等				
・市の将棋サークルに声掛けして、地域はもとより市全体で盛り上げる。				
・自戦解説の大盤操作を市役所職員 2 名に依頼する。				
・申込受付の際、予め、指導対局の順番を決めておき、スムーズに行えるよう配慮する。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・将棋愛好者にアマ最高峰の将棋を体験してもらい、貴重な学びの場となった。				
・次世代を担う子どもたちに、夢と希望を与えることができた。				
備 考				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	10月22日	・将棋の元アマ名人山田敦幹さんに「将棋が強くなる方法」と題して、講演をしてもらう。 ・想い出に残る激戦譜を大盤で解説してもらう。 ・指導対局を行い、参加者に最高峰の将棋を体験してもらう。 参加人数 10人	将棋元 アマ名人 山田敦幹さん	白井市富士地区出身の将棋元アマ名人による自戦解説と指導対局により、参加者に最高峰の将棋を体験し、卒んでもらうと共に、子どもたちに夢と希望を与える。

講座・学習プログラム

講座名 囲基体験教室(全3回)			
対 象 市内在住小学生以上			
募集人数 10人		参加人数 4人	
事業の課題と目標			
課 題			
・ 囲基のルールが難しく、馴染みが薄い。 ・ 身近に指導できる人があまりいない。 ・ 囲基を学ぶより、他のゲームの方に関心が向いてしまう。 ・ 囲基の楽しさを体験できていない。			
目 標			
・ 参加者が実際に囲基を打てるようになる。 ・ 参加者が囲基の楽しさを体験する。 ・ 囲基を通して仲間づくりをする。 ・ 集中力、忍耐力、先を読む力、状況判断力を身に付け、人間力を高める。			
学習期間 令和5年1月		回数 3回	
学習場所 老人憩いの家			
予 算	総額：	20,000 円	総額： ※うち参加者負担金 0 円
	内訳：講師料	15,000 円	内訳：講師料 15,000 円
	その他事業費	5,000 円	その他事業費 0 円
	講 師	富士囲基クラブ	
事業参加者への配慮等			
・ 囲基の基本ルールを指導する。 ・ 礼儀作法を含めた対局の流れをつかませる。 ・ より多く実践を積ませる。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・ 囲基を体験してもらい、実際に囲基が打てるようになった。 ・ 囲基の楽しさを実感してもらい、囲基に興味をもってもらった。 ・ 囲基を通じた、様々な学びができ、人との繋がりができた。			
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	1月8日	・指導者から囲碁の基本、ルールを説明してもらう。 ・指導者から実際の囲碁対局の流れや礼儀作法を教えてもらう。 ・指導により、実際に囲碁に打てるようにする。 参加人数 4人	富士囲碁クラブの皆さん	・囲碁のルールを覚えてもらい、実際に囲碁を体験させ、囲碁の楽しさ、深さを知ってもらう。
2	1月15日	・実践指導により、囲碁の楽しさを理解してもらう。 ・丁寧にわかりやすく指導して、囲碁に興味を持ってもらう。 参加人数 4人	富士囲碁クラブの皆さん	・実際に囲碁を打つことにより、実践感覚を身に付けると共に、やる気を起こさせる。
3	1月22日	・実践指導により、囲碁の楽しさを理解してもらう。 ・負けて悔しいという思いを体験させ、更に上を目指してもらう。 ・囲碁を通じて仲間づくりが出来るようになる。 参加人数 4人	富士囲碁クラブの皆さん	・囲碁の厳しさを体験させ、更に上を目指してもらう。 ・囲碁を通じて仲間づくりをしってもらう。

講座・学習プログラム

講座名	土器つと古代		
対 象	市内在住の小学生		
募集人数	8人	参加人数	8人
事業の課題と目標	課題 ・古代歴史に触れる機会があまりない。 ・便利な社会ゆえに、物の大切さがあまり理解されていない。 ・災害時などの対策のため、古き時代の生活を見直す必要がある。 目 標 ・古代歴史を知り、興味を持ってもらう。 ・古代人の生活の大変さを体験し、今の生活の便利さを認識してもらう。		
学習期間	令和4年7月	回数	1回
学習場所	集会室		
予 算	総額： 5,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳： 講師料 0 円 その他事業費 5,000 円	決 算	総額： 2,400 円 ※うち参加者負担金 2,400 円 内訳： 講師料 0 円 その他事業費 2,400 円
講 師	千葉県教育庁教育振興部文化財課普及管理班 宿城 高義さん(アシスタント2人補助)		
事業参加者への配慮等	・土器解説の後、本物の土器に触れてもらう。 ・土器模様のしおりづくりでは、好きな色に土器を合わせたしおりをラミネート加工して、大切にでもらえるようにする。 ・勾玉づくりでは、手順に従い、全員が完成できるよう段階的に進めていく。		
事業の成果（課題や目標に対して）	・土器の解説を行い、本物の土器に触れてもらい、古代歴史に興味を持ってもらった。 ・土器模様のしおりや苦労して勾玉を作ることで、物の大切さが理解された。		
備 考	・今後は、子どもだけでなく、保護者の参加も可能としたい。また、募集人員も増やしていきたい。		

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	7月27日	- 土器も解説を行い、本物の土器に触れてもらう。 - 好みの色を塗り、土器を合わせて、土器模様のしおりを作ってもらう。 - 古代人が大切にしていた勾玉を作ってもらう。 参加人数 8人	宿城さん (アシスタント 2人補助)	- 古代歴史に興味を持ち学習に役立てる。 - 古代人の生活の大変さを体験し、今の生活の便利さを認識してもらう。 - 素材から物を形にして、物のありがたさを実感してもらう。

講座・学習プログラム

講座名	防災教室			
対 象	市内在住小学生親子			
募集人数	10組20人	参加人数	6組13人	
事業の課題と目標				
課 題	・近年、地震や自然災害が多い中自分自身の身の守り方や方法 ・何をどの位準備しておくべきか不安を感じている			
目 標	・防災の知識を学び、いざという時、1人である時でも対応できるようにする。			
学習期間	令和4年8月	回数	1回	
学習場所	大集会室			
予 算	総額：60,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳：講師料 10,000 円 その他事業費 50,000 円	決 算	総額：11,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳：講師料 5,000 円 その他事業費 6,000 円	
講 師	防災士 宮本かおり			
事業参加者への配慮等				
・防災ストラップの作成時、子どもがわからないところや難しいところはお手伝いした。 ・小さいお子様には常に気配りをしていた。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・防災士から、常に準備しておくもの、過去の災害時に一番困った事などわかり易く説明してもらい親子で話し合う機会になった。				
備 考				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	8月21日	・災害時に役立つグッズの紹介 ・防災ストラップの作成 ・子ども向けの防災のお話し 参加人数 6組13人	宮本先生	1人である時に災害が起こった場合の対応方法を学ぶ。 防災用品の大切さ、大事さを学ぶ。

講座・学習プログラム

講座名	クッキング教室			
対 象	市内在住成人			
募集人数	1回目 8人	2回目 12人	参加人数	延べ 20人
事業の課題と目標課題	事業の課題と目標 ・気軽にできる趣味を通して人と交流できる機会が少ない。 ・趣味が少なく、家に閉じこもりがちである。			
目 標	・料理の楽しさを実感してもらう。 ・参加者同士の交流をはぐくむ。			
学習期間	令和4年11月～令和5年2月		回数	2回
学習場所	調理室			
予 算	総額：44,000円 ※うち参加者負担金 0円 内訳：講師料 10,000円 その他事業費 34,000円	総額：21,157円 ※うち参加者負担金 6,000円 内訳：講師料 10,000円 その他事業費 11,157円	決 算	
講 師	田村純子さん			
事業参加者への配慮等	・換気の徹底・空気清浄機の使用 ・手指アルコール消毒をこまめに行う。 ・自分の分は自分で作成する。（自己完結型）			
事業の成果（課題や目標に対して）	・料理を通して、参加者同士会話しながら楽しく料理ができた。			
備 考				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	11月20日	「ベーグル作り」 手ごねでベーグル生地を形成し、焼き上げた。 参加人数 8人 自己負担金 300円	田村さん	料理の楽しさと参加者同士の交流を図る。
2	2月12日	「肉まん作り」 皮から手ごねで肉まんを作った。 参加人数 12人 自己負担金 300円	田村さん	料理の楽しさと参加者同士の交流を図る。

講座・学習プログラム

講座名	フラワーアレンジメント教室		
対 象	市内在住成人		
募集人数	10人	参加人数	9人
事業の課題と目標			
課 題	・気軽に体験する場が少ない。 ・同じ趣味を持った仲間を見つけることは難しい。		
目 標	・アレンジメントの基礎知識やお花の豆知識、管理の仕方などを学ぶ。 ・花を通して参加者同士の交流を育む。		
学習期間	令和4年12月	回数	1回
学習場所	集会所		
予 算	総額：15,000円 ※うち参加者負担金 0円 内訳：講師料 5,000円 その他事業費 10,000円	決 算	総額：26,000円 ※うち参加者負担金 18,000円 内訳：講師料 6,000円 その他事業費 20,000円
講 師	高橋かおりさん		
事業参加者への配慮等	・換気・空気清浄機の使用 ・花・枝・葉のゴミが少ないように、出来る限りアレンジに使用した。		
事業の成果（課題や目標に対して）	・講師の話しが楽しく、基礎知識や管理の仕方がわかりやすくて良かった。との声をたくさんいただいた。		
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	12月1日	クリスマスに飾れるフラワーアレンジメントに挑戦し、楽しんでもらう。 参加者 9人 自己負担金 2000円	高橋さん	お花の楽しさ、基礎知識、管理の仕方を学び、参加者同士の交流も図る。

講座・学習プログラム

講座名	終活支援講座		
対 象	市内在住成人		
募集人数	10人	参加人数	延べ9人
事業の課題と目標			
課 題	・ 人生の終末について学ぶ機会が少ない。 ・ 人生の終末に不安がある。		
目 標	・ 自分の人生の終末を考えることで、前向きに悔いのない人生を送れるようにする。 ・ もしもの時の自分の望みや選択を、家族と話し合う。		
学習期間	令和4年7月～令和5年2月	回数	2回
学習場所	休養室2		
予 算	総額：10,000円 ※うち参加者負担金 0円 内訳：講師料 5,000円 その他事業費 5,000円	決 算	総額：4,320円 ※うち参加者負担金 0円 内訳：講師料 内訳： その他事業費 4,320円
講 師	市役所職員・地域包括支援センター職員		
事業参加者への配慮等	・ プロジェクターとスクリーンを使って、資料を大きく表示し見やすくした。 ・ 講座中でも質問しやすいように声掛けした。		
事業の成果（課題や目標に対して）	・ 終活について具体的に考えるきっかけになった。		
備 考	・ 参加者に「白井市終活支援ノート」を配布した。		

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	7月28日	終活支援ノートを見ながら、介護や成年後見制度などについて学ぶ。 もしバナカードを使って、終末期医療について考える。 参加人数5人	市役所職員・ 地域包括支援 センター職員	終末を迎えるにあたって、心配や不安が少しでも軽減できるようにする。
2	2月24日	終活支援ノートを見ながら、介護や成年後見制度などについて学ぶ。 もしバナカードを使って、終末期医療について考える。 参加人数4人	市役所職員 地域包括支援 センター職員	介護にかかる様々な費用を具体的に教えてもらうことで、金銭面での不安を軽減できる。

講座・学習プログラム

講座名	家庭菜園・園芸教室		
対 象	市内在住者		
募集人数	15人	参加人数	延べ16人
事業の課題と目標	課題 ・地域で自己流に菜園を行う住民への手助け、及びアドバイスが必要。 目標 ・畑の作り方、種まき・苗植えの方法、肥料の選び方・まき方、収穫までをプロの先生から学び、自分達の菜園に生かす。		
学習期間	令和4年7月～令和5年3月	回数	2回
学習場所	休養室2・集會室 及び屋外菜園		
予 算	総額： 25,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳： 講師料 10,000 円 その他事業費 15,000 円	決 算 総額： 12,696 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳： 講師料 10,000 円 その他事業費 2,696 円	
講 師	長谷川則夫先生		
事業参加者への配慮等	・実際に畑で実践する前に部屋で説明をし、終わった後も部屋で質問を受け付けるなど、参加者全員がきちんと学習できるようにした。		
事業の成果（課題や目標に対して）	・実際に畑での作業を体験できるため、細部の疑問や質問などにも応じることが出来た。		
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	7月23日	3月の家庭菜園教室に参加した人に連絡し、種を まいた人参とジャガイモの収穫をした。 参加人数 8人	長谷川さん	自己流で家庭菜園を行っている人に 土づくりの基礎から学んでもらい、 役立ててもらおう。 作物を育て、収穫する喜びを感じて もらおう。
2	3月25日	雨で畑が使えなかったため、前日に講師の方が畑 での作業を撮影し、その動画を使って春植え野菜 の栽培について学んだ。 参加人数 8人	長谷川さん	自己流で家庭菜園を行っている人に 土づくりの基礎から学んでもらい、 役立ててもらおう。 作物を育て、収穫する喜びを感じて もらおう。

講座・学習プログラム

講座名	ヨガ教室(全2回)		
対 象	市内在住成人女性		
募集人数	1回目30人	2回目15人	参加人数 延べ19人
事業の課題と目標			
課 題	・ コロナ禍で身体を動かす機会が減った方が多い。 ・ 自己の健康管理に関心を持つ方が多いが、気軽に習う場が少ない。		
目 標	・ 身体をほぐし、リラックスやリフレッシュし、心身共に癒す。 ・ 健康的な身体づくりの入口として、自宅でも出来るようにする。		
学習期間	令和4年7月～令和5年1月		回数 4回
学習場所	大集会室、休養室2		
予 算	総額： 25,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳： 講師料 20,000 円 その他事業費 5,000 円	決 算 総額： 20,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳： 講師料 20,000 円 その他事業費 0 円	
講 師	HTA認定インストラクター KEIKO先生		
事業参加者への配慮等			
・ 換気・空気清浄機の使用 ・ 久しぶりに身体を動かす方もいることを念頭に置き、無理のない取り組みをする。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・ 普段使っていない部分を動かして気持ちがよく、リフレッシュできた等の声をいただいた。 ・ 激しい運動や先生と同じポーズをしなくても、やろうとするだけで十分効果はある。 ・ 講師の丁寧な指導を受けられ、サークル参加に関心を持っていた。			
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	7月20日	1回目：背骨周りを中心に動かし、身体の後ろ面をほぐす。 参加人数 8人	KEIKO先生	普段動かさない部分を伸ばしたり、ねじったり色々な動きを取り入れ、リラクセスしてもらう。
2	7月27日	2回目は下半身を中心に動かし、バランスを整える。 参加人数 5人	KEIKO先生	全2回を通して、身体をほぐしバランスを整え、健康維持につながるようになる。
3	1月18日	身体をゆっくり伸ばしてから、普段動かさない筋肉を使って色々なポーズをする。 参加人数 11人	KEIKO先生	寒さで凝り固まった身体をゆっくりとした動作で動かし、リフレッシュしてもらう。
4	1月25日	前回より難しいポーズを取り入れ、身体の調子を整える手助けと維持できるようにする。 参加人数 9人	KEIKO先生	少し難易度を上げ筋力アップのポーズを取り入れ、寒さに負けず錆びない身体づくりの入り口となるような講座を行った。

講座・学習プログラム

講座名	ヨガ＆薬膳茶		
対 象	市内在住成人女性		
募集人数	8人	参加人数	8人
事業の課題と目標			
課 題			
・薬膳茶とは、どのようなものか知ってもらう。 ・自己健康管理に関心を持つ方が多く、身体の内と外からリフレッシュするための具体的にを行う方法が難しい。			
目 標			
・薬膳茶の魅力を知ってもらい、ヨガで身体を動かし、身体の内と外からリフレッシュしてもらう。 ・今回は夏バテ予防をテーマに講座を行う。			
学習期間	令和4年6月	回数	1回
学習場所	体養生2、調理室		
予 算	総額：	15,000 円	総額：
	※うち参加者負担金	0 円	※うち参加者負担金
	内訳：講師料	10,000 円	決 算
	その他事業費	5,000 円	内訳： 講師料 10,000 円 その他事業費 5,174 円
講 師	HITA認定ヨガインストラクターKEIKO先生、薬膳茶エバンジェリストAI先生		
事業参加者への配慮等			
・換気・空気清浄機の使用 ・無理なく身体を動かすように声掛けをする。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・ヨガと薬膳茶の組み合わせがとても良かったと、多くの声をいただいた。 ・薬膳茶に興味を持っていた。			
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	6月29日	夏バテ防止をテーマに初級レベルのヨガと自分好みでブレンドした薬膳茶を楽しんでもらう。 参加人数 8人	KEIKO先生 AI先生	コロナ禍と酷暑で心身ともに疲れている方が多いため、ヨガで身体を動かし、薬膳茶で心身ともにリフレッシュしてもらおう。

講座・学習プログラム

講座名	ヨガ＆珈琲		
対 象	市内住成人女性		
募集人数	12人	参加人数	12人
事業の課題と目標	課題 ・ コロナ禍、家に閉じこもりがちで心身ともに疲れを感じている方が多い。 ・ 交流する場所が少ない。 目 標 ・ コーヒーの美味しい淹れ方を学び、ヨガで身体を動かし、心身共にリフレッシュする。		
学習期間	令和4年10月	回数	1回
学習場所	休養室2、調理室		
予 算	総額：15,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳：講師料 10,000 円 その他事業費 5,000 円	決 算 総額：※うち参加者負担金 0 円 内訳：講師料 10,000 円 その他事業費 1,385 円	11,385 円 0 円 10,000 円 1,385 円
講 師	JHTA認定ヨガインストラクターKEIKO先生、コーヒーバリストAI先生		
事業参加者への配慮等	・ 換気・空気清浄機の使用 ・ コーヒーの淹れ方レクチャーと試飲のみにする。 ・ 久しぶりに身体を動かす方もいることを念頭におき、無理のない取り組みをする。		
事業の成果（課題や目標に対して）	・ ヨガは無理なく出来て良かった。コーヒーの淹れ方で味が変わるのがびっくりで、参加してよかった。との声をいただいた。		
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	10月26日	コーヒーマスターの淹れ方を学び、ヨガで身体を動かして、身体の内と外の両方からリラックスしてもらう。 参加人数 12人	KEIKO先生 AI先生	コーヒーマスターの淹れ方レクチャーや色々なヨガポーズを行い、参加者間での交流を図る。

講座・学習プログラム

講座名	シニアのためのスマホ教室		
対 象	60歳以上の市内在住者		
募集人数	6月、1月各20人(午前・午後) 3月10人	参加人数	延べ57人
事業の課題と目標	課題 ・スマホはシニアにとって馴染みにくく、使いこなすのが難しい。 ・スマホを使いこなせない事による、情報の入手量が少ない。 ・緊急時などの連絡体制に懸念がある。 目標 ・まだスマートフォンを所持していない方、購入を検討している方、スマホに変えたが操作方法が分からない方がスマホを使いこなせるようになる。		
学習期間	令和4年6月～3月	回数	3回
学習場所	大集会所 集会所		
予 算	総額： 5,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳： 講師料 0 円 その他事業費 5,000 円	決 算	総額： 0 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳： 講師料 0 円 その他事業費 0 円
講 師	ソフトバンク公認スマホアドバイザー		
事業参加者への配慮等	・講座の内容についていけるか心配りをした ・途中、操作がわからなくなったときも、アシスタントが待機して即座に対応する。 ・スマートフォンを持っていない方も学べるように、貸出機を用意する。		
事業の成果（課題や目標に対して）	・実際にスマートフォンを使用し、体験しながら学ぶことができた ・地図アプリ、カメラ機能、音声認識機能など体験し覚えることができた。		
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	6月17日	【第1回】入門編 午前 ・スマホが使えない、使い方を知らない人のためにアドバイザーからスマホの基本的な使い方が日常よく使う機能を中心に説明し体験してもらう。 ・アシスタントが付いて、途中操作が分からなくなったら対応する。 参加人数 10人	ソフトバンク 公認スマホ アドバイザー	・実際にスマホを使用して、いろいろな機能を体験してもらい、スマホを使いこなせるようにする。
2	6月17日	【第1回】基本編 午後 ・スマホを使いこなせない、持っていてもよく分からない人のためにアドバイザーから、スマホの基本的な使い方が便利な機能を説明し体験してもらう。 ・アシスタントが付いて、途中操作が分からなくなったら対応する。 参加人数 14人	ソフトバンク 公認スマホ アドバイザー	・実際にスマホを使用して、いろいろな機能を体験してもらい、スマホを使いこなせるようにする。
3	1月31日	【第2回】基本編 午前 ・スマホを使いこなせない、持っていてもよく分からない人のためにアドバイザーから、スマホの基本的な使い方が便利な機能を説明し体験してもらう。 ・アシスタントが付いて、途中操作が分からなくなったら対応する。 参加人数 9人	ソフトバンク 公認スマホ アドバイザー	・実際にスマホを使用して、いろいろな機能を体験してもらい、スマホを使いこなせるようにする。
4	1月31日	【第2回】応用編 午前 ・スマホを使用しているが、もう少し詳しく使いこなしたい方、今よりレベルアップしたい方にアドバイザーから基本操作やアプリ機能を一緒に実践してもらう。 ・アシスタントが付いて、途中操作が分からなくなったら対応する。 参加人数 15人	ソフトバンク 公認スマホ アドバイザー	・実際にスマホを使用して、いろいろな機能を体験してもらい、スマホを使いこなせるようにする。
5	3月17日	【第3回】入門編 ・自分のスマホを使いこなせていない方、スマホに変えたばかりの方のために、アドバイザーからスマホの基本的な使い方や操作方法を体験してもらう。 ・アシスタントが付いて、途中操作が分からなくなったら対応する。 参加人数 9人	ソフトバンク 公認スマホ アドバイザー	・実際に自分のスマホを使用して、いろいろな機能を体験してもらい、スマホを使いこなせるようにする。

講座・学習プログラム

講座名	シュートレーン教室		
対 象	市内在住成人者		
募集人数	12人	参加人数	12人
事業の課題と目標			
課 題	・コロナの影響もあり、外出する機会が減っているため、参加者同士の交流、情報交換の場を作る。		
目 標	・幅広い年齢層の参加者を集め、地域住民の活動へも参加の機会を作る。		
学習期間	令和4年12月	回数	1回
学習場所	調理室		
予 算	総額：0円 ※うち参加者負担金0円 内訳：講師料0円 その他事業費0円	決 算	総額：11,000円 ※うち参加者負担金6,000円 内訳：講師料5,000円 その他事業費6,000円
講 師	斉藤とし子先生		
事業参加者への配慮等	・参加者同士で交流を図ることが出来るように声かけ、目配りをした。		
事業の成果（課題や目標に対して）	・経験者もいた為、進行もスムーズにいき初めて参加する人のフォローをしている場面がみられた。		
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	12月6日	・ハン菓子のシュートレーンを手作りした。 ・各自で自分の分を作り、持ち帰った。 参加人数 12人 自己負担金500円	斉藤先生	・お菓子作りを通して、参加者同士の交流を深める。 ・お菓子作りの楽しさを知ってもらう。

講座・学習プログラム

講座名	普通救命講習会			
対 象	市内在中学生以上			
募集人数	12人	参加人数	6人	
事業の課題と目標				
課 題	・事故や災害時の救命対応を習得する機会が少ない。			
目 標	・AEDの正しい使い方を実際に操作して学び、非常時にも慌てず対応できるようにする。			
学習期間	令和4年10月	回数	1回	
学習場所	大集会室			
予 算	総額：5,000円 ※うち参加者負担金0円 内訳：講師料5,000円 その他事業費0円	決 算	総額：※うち参加者負担金 内訳：講師料 その他事業費	0円 0円 0円 0円
講 師	西白井消防署職員			
事業参加者への配慮等				
・講習の時間が長いので、途中で休憩を挟んだり、部屋の換気を行った。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・AEDを使った心肺蘇生法を、実際に何度も体験することにより、知識だけではなく体で覚えることができた。				
・窒息対応や出血時対応など、生活の中での救急時の対応を学ぶことができた。				
備 考				
・講習会修了者には、消防署よりカード式の「救命講習修了証」が発行される。				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	10月15日	AEDを使った心肺蘇生を、繰り返し体験して学ぶ。 止血法、窒息時の対処法などを学ぶ。 参加人数 6人	西白井消防署 職員	一次救命措置の大切さを学び、緊急時に慌てず対応できる手法を身に付ける。

講座・学習プログラム

講座名 カービング教室			
対 象 市内在住成人			
募集人数 8人		参加人数 6人	
事業の課題と目標			
課 題			
・ 気軽に学べる趣味の場が少ない。			
・ 同じ趣味を持った仲間を見つけることが難しい。			
目 標			
・ 参加者同士で交流し合いながら、作品作りに取り組む。			
・ 作品を楽しんで完成させる。			
学習期間 令和4年9月		回数 1回	
学習場所 集会所			
予 算	総額：	15,000 円	総額：
	※うち参加者負担金	円	※うち参加者負担金
	内訳： 講師料	5,000 円	内訳： 講師料
	その他事業費	10,000 円	その他事業費
講 師	吉原美智子さん		
事業参加者への配慮等			
・ 参加者によって作業の進捗具合が違うので、個々に声掛けする。			
・ 分からない所はいつでも質問できるように配慮する。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・ それぞれが楽しんで作品を仕上げることが出来た。			
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	9月15日	カービングナイフを使って、石けんにお花の模様を彫刻し、ビーズで飾りをつけて仕上げた。 参加人数 6人 自己負担金500円	吉原さん	参加者同士のコミュニケーションを図り、作品作りを楽しむ。

講座・学習プログラム

講座名	茶道体験教室裏千家(全3回)		
対 象	市内在住成人女性		
募集人数	10人	参加人数	8人
事業の課題と目標	課題 ・伝統文化である茶道に触れる機会が少ない。 目標 ・サークル化を目指す。 ・茶道が初めての方へ、楽しさや、奥深さを体験してもらう。		
学習期間	令和5年1月	回数	3回
学習場所	休養室2		
予 算	総額： ※うち参加者負担金 内訳：講師料 その他事業費	0 円 0 円 0 円 0 円	総額： ※うち参加者負担金 内訳：講師料 その他事業費
34,694 円 12,000 円 21,000 円 13,694 円			
講 師	裏千家助教 篠原宗則先生		
事業参加者への配慮等	・換気・空気清浄機の使用 ・サークル化について説明を行った。		
事業の成果（課題や目標に対して）	・伝統文化である茶道の楽しさを実感してもらえた。 ・サークル立ち上げることが出来た。		
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	1月12日	割稽古 ・茶道のお辞儀の仕方・座り方、手の置き方 ・床の間の拝見の仕方 初回なのでお茶は点ててもらい ・お菓子の頂き方、食べ方 ・お抹茶の頂方、飲み方 参加人数 8人 自己負担金 500円	篠原先生	茶道とはどのようなものか実際に 行って、楽しさを実感してもらう。
2	1月19日	前回の復習と ・袱紗の捌き方、道具の清め方 ・お抹茶の点て方 参加人数 7人 自己負担金 500円	篠原先生	反復練習をし、茶道の礼儀や楽しさ 奥深さを実感してもらう。
3	1月26日	割稽古 今まで習った一連の流れを反復練習をし、各自点 てたお抹茶を頂き終了となった。 参加人数 6人 自己負担金 500円	篠原先生	茶道体験教室を通じて、受講者間で 交流を図る。

講座・学習プログラム

講座名	世代間交流(グラウンドゴルフ)			
対 象	市内在住者			
募集人数	50人	参加人数	28人	
事業の課題と目標				
課 題				
・同一地域に住む子どもたちと高齢者が交流を深める機会が少なくなっている。				
目 標				
・グラウンドゴルフ大会で、子どもから高齢者までの混合チームが一緒に行うことにより、参加者同士がお互いに協力し合いながら、ゲームを楽しみ交流を深める。				
学習期間	令和4年11月	回数	1回	
学習場所	白井第三小学校 体育館			
予 算	総額： 50,000 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳： 講師料 0 円 その他事業費 50,000 円	決 算	総額： 38,798 円 ※うち参加者負担金 0 円 内訳： 講師料 1,512 円 その他事業費 37,286 円	
講 師				
事業参加者への配慮等				
・子ども、成人、高齢者の混じったチームを予め決めておく。				
・事前に地域高齢者クラブのボランティアを募集し、各チームに配属して、審判、スコアの記入をしてもらう。				
・大人1～3位、子ども1～3位、ホールインワンの方には景品を提供する。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・チームを組むことにより、教えたり、教わったりしながら子どもから高齢者まで楽しみながら交流を深めることが出来た。				
備 考				
・グラウンドゴルフの道具は事前に予約をして市役所、ふじ保育園、第二小学校より借用した。				
・第三小学校のグラウンドと体育館を借用した。(雨の為、体育館で実施)				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	11月23日	・1チーム4人で6チームを結成。 ・グラウンドゴルフの説明をしてから、事前練習を行い、各々8ホールの合計スコアで順位を決定。 参加人数 28人	職員及びボランティア	・小学生、成人、高齢者が各チームに編成され、教わりながらプレーすることにより、会話が生まれ自然に交流が深められる。

講座・学習プログラム

講座名	弟橘レイアコンサート		
対 象	一般		
募集人数	市民70人	参加人数	95人(招待者を含む)
事業の課題と目標			
課 題			
・コロナ禍で様々な活動が制限され、地域を盛り上げる機会があまりない。			
目 標			
・富士地区にゆかりのある「弟橘レイアさん」によるコンサートを開催して、地域を盛り上げる。			
学習期間	令和4年9月		回数 1回
学習場所	大集会室		
予 算	総額：	250,000 円	総額：
	※うち参加者負担金	0 円	※うち参加者負担金
	内訳：講師料	250,000 円	内訳：講師料
講 師	その他事業費	0 円	その他事業費
	34,658 円		
事業参加者への配慮等			
・演奏者及びスタッフと十分に打ち合わせを行う。			
・富士センターの職員・理事などの役割分担をはっきりさせ、全員体制で、協力して行えるようにする。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・コロナ禍でも、地域にゆかりのある演奏者によるコンサートが開催でき、地域を盛り上げることが出来た。			
備 考			

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	9月25日	荻橋レイアコンサート 13時30分開場 14時開演～16時20分終演 出演者 荻橋レイア・・・ハープ、ソプラノ 中山あすか・・・フルート 畑村 香・・・ピアノ 参加人数 95人		・白井市富士地区出身の荻橋レイアさんによるコンサートで地域を盛り上げる。

講座・学習プログラム

講座名	富士クリスマスフェスタ			
対 象	市内在住者			
募集人数	自由参加	参加人数	189人	
事業の課題と目標				
課 題	・地域交流の機会があまりない。 ・地域でクリスマスを盛り上げる場がない。			
目 標	・クリスマスを盛り上げる場を持ち、多くの団体が参加、協力し合い地域住民の方に集ってもらい交流を深めてもらう。			
学習期間	令和4年12月	回数	1回	
学習場所	大集会室			
予 算	総額：	50,000 円	総額：	74,996 円
	※うち参加者負担金	0 円	※うち参加者負担金	0 円
	内訳：講師料	10,000 円	内訳：講師料	10,000 円
	その他事業費	40,000 円	その他事業費	64,996 円
講 師				
事業参加者への配慮等				
・出演者との打ち合わせを密にし、会場の説明を徹底して立ち位置や配置などの配慮をした。				
・サークル活動の成果を発表して楽しんでもらう。				
事業の成果（課題や目標に対して）				
・たくさんの方が集まり、地域交流、世代間交流ができた。				
・出演者や観客にフェスタを楽しんでもらい、次回も参加したいとの声があった。				
備 考				
・出演者の人数が多く、控室が足りなかった。				

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	講 師	事業のねらい
1	12月17日	富士クリスマスフェスタ 9:50開始 10:00～12:30終演 ソアヴィータ(合唱) ひまわりキッズ(リトミック) Aiko(サックス) RedHot(キッズダンス) アクセル(キッズダンス) 参加人数 189人		・発表会を機にセンターに集まってもらい、子どもから大人まで地域住民の交流の場にしてもらう。

事業活動

事業名	トイトイランド		
対 象	乳幼児親子		
参加人数	延べ 4 5 人		
事業の課題と目標			
課 題	・核家族や地域関係の希薄化で地域社会との交流が少ない。 ・同世代の子を持つ親子の交流の場が少ない。		
目 標	・普段とは違う環境で、参加者同士の交流を図る。		
期 間	令和 4 年 4 月～令和 5 年 2 月	回 数	3 回
場 所	児童ルーム		
事業参加者への配慮等			
	・怪我や事故のないように細心の注意を払う。 ・初めての参加者にも馴染めるように楽しい雰囲気作りを心掛ける。		
事業の成果（課題や目標に対して）			
	・参加者同士の交流を図ることができた。		
備 考			

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	4月10日	・トミカ、プラレール、リカちゃん人形、シルバニアファミリーで、参加者親子と一緒に遊ぶ。 参加人数 乳幼児 1 0 人 保護者 5 人	遊びを通して参加者同士の交流を図る。
2	11月13日	・トミカ、プラレール、リカちゃん人形、シルバニアファミリーで、参加者親子と一緒に遊ぶ。 参加人数 乳幼児 8 人 保護者 5 人	遊びを通して参加者同士の交流を図る。
3	2月4日	・トミカ、プラレール、リカちゃん人形、シルバニアファミリーで、参加者親子と一緒に遊ぶ。 参加人数 乳幼児 9 人 保護者 8 人	遊びを通して参加者同士の交流を図る。

事業活動

事業名	ハッピーハロウィーン		
対 象	小学生～高校生		
参加人数	169人		
事業の課題と目標			
課 題			
・核家族や地域関係の希薄化で地域社会との交流が少ない。			
・季節を感じ、楽しめる行事が少ない。			
目 標			
・ハロウィーンを楽しみ季節の移り変わりを感じてもらう。			
・参加者同士で交流し、地域の輪を広げる。			
期 間	令和4年10月	回 数	2回
場 所	1階ロビー		
事業参加者への配慮等			
・館内全体を楽しむ装飾にし、乳児から大人まで楽しめる雰囲気にした。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・行事を通して異学区、異学年の友だちや地域の人たちと交流を図ることができた。			
備 考			

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	10月29日	クイズコーナー、お菓子すくいコーナー、フォトスポットコーナーを設置しハロウィーンを楽しむ。 参加人数 幼児30人 小学生41人 大人33人	季節行事を楽しむ。
2	10月30日	クイズコーナー、お菓子すくいコーナー、フォトスポットコーナーを設置しハロウィーンを楽しむ。 参加人数 幼児16人 小学生27人 中学生3人 大人33人	季節行事を楽しむ。

事業活動

事業名	クリスマス会		
対 象	小学生		
参加人数	11人		
事業の課題と目標			
課 題	・核家族や地域関係の希薄化で地域社会との交流が少ない。 ・季節を感じ、楽しめる行事が少ない。		
目 標	・クリスマスを楽しみ、季節の移り変わりを感じてもらう。 ・参加者同士で交流し、友だちを作る。		
期 間	令和4年12月	回 数	1回
場 所	大集会室		
事業参加者への配慮等			
・輪に入れない子に声掛けをし、馴染めるような雰囲気作りをした。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・はじめは緊張していた子ども達もゲームを通して交流を深めることができた。			
備 考	・当日欠席1人		

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	12月24日	・新聞紙ジャンケン ・新聞紙合戦 ・ビンゴ ・イントロクイズ 参加人数 11人 自己負担金 100円	季節行事を楽しむ。

事業活動

事業名	体育館で遊ぼう		
対 象	幼児～高校生		
参加人数	延べ 48人		
事業の課題と目標			
課 題	・核家族や地域社会の希薄化で地域社会との交流が少ない。 ・仲間作りの場、気軽に集える場所が少ない。 ・運動が苦手な子や、体を動かすことに意欲的でない子が多い。		
目 標	・異学年との交流を図る。 ・普段遊べない広い体育館で体を思い切り動かす。		
期 間	令和4年8月、令和5年1月	回 数	2回
場 所	大集会室		
事業参加者への配慮等			
・怪我のないようルールを守るように声掛けをした。 ・楽しく参加できるような雰囲気を作る。 ・一人で参加している子に輪に入れるよう、声掛けをした。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・相手を気遣う言葉掛けや喜びを共に分かち合う姿が見られた。 ・最初は消極的だった子も含め皆が全力で走ってゲームを楽しめた。			
備 考			
・幼児は保護者同伴			

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	8月24日	卓球、バドミントン、フープ、ぼっくり、長縄で遊ぶ。 参加人数 子ども23人 大人5人	遊びを通して参加者同士の交流を図る。
2	1月6日	・10月から児童ルームに遊びに来た子にカルタの絵と読み札を作ってもらう。 ・子ども達が作ったカルタでカルタ取り大会 参加人数 子ども17人 大人3人	遊びを通して参加者同士の交流を図る。

事業活動

事業名	第32回富士センターフェスティバル		
対 象	一般		
参加人数	1085人		
事業の課題と目標			
課 題			
・日頃富士センターを利用する各サークルの活動を外部に発表する機会が少ない。 ・地域住民、地域ボランティア、各サークル間の連帯・交流を深める機会が少ない。 ・地域交流の場としての富士センターの認知度が未だ不十分。			
目 標			
・各サークル活動の成果・発表の場を地域住民に周知し、より多くの住民が参加できる機会をつくる。 ・地域住民が一同に会する機会を提供することにより、コミュニティの交流・連帯を深め、富士センターの存在をより身近なものにする。			
期 間	令和5年3月	回 数	1回
場 所	富士センター全館（図書室除）及び一部駐車場		
事業参加者への配慮等			
・食品従事者の検査、保健所、消防署への申請を実施し事故を未然に防ぐ。 ・参加各サークルの自主性を尊重し、実行委員会による積極的運営を行う。 ・各年代の住民が楽しく参加できる内容を工夫し企画に盛り込む。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・各サークルの発表の場として多数の近隣住民が気軽に足を運ぶ機会を提供できた。 ・世代を超えた地域住民がフェスティバルに参加し、コミュニティの交流の場として富士センターを身近に感じてもらうことができた。			
備 考			
・入場者： 大人553人、高校生以下の子ども532人（合計：1085人）			

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	11月5日	第1回準備会議 ・実行委員長、副委員長、受付兼庶務係の選出 ・フェスティバル進行準備の日程 ・団体別利用時間及び会場調整 ・備品数量の確認 ・役割分担の調整 （13サークル参加）14人	・参加サークルから正副実行委員長、庶務係を選出することにより各サークルの自主的な準備・運営を目指す。 ・部屋割り確認、備品申請及び確認、役割分担等を参加サークルが一同に議論・決定することにより横のコミュニケーションを図る。
2	11月26日	第2回準備会議 ・プログラム（案）の確認 ・必要備品の確認 ・役割分担の確認 ・駐車場、駐輪場の確認 （12サークル参加）13人	・フェスティバル開催に向けての最終確認。各サークルが協力し合い準備を進めることで円滑な運営をめざすと共に、連帯を深める。 ・各サークルの発表、展示、バザー、模擬店、体験を実施し地域住民への富士センターの存在と認識を深める。
3	3月4日 前日準備		
4	3月5日	第32回富士センターフェスティバルの実施 発表・販売・体験 参加団体 18団体 来館者 1085人 （大人：553人、子ども：532人）	
5	3月11日	フェスティバル反省会 ・本年度フェスティバル実施報告 ・フェスティバル実施の反省 ・次年度フェスティバルの実施要領（開催日の日程、今後の進行） ・次年度の実行委員選出について	

事業活動

事業名	美化交流会		
対 象	地域住民		
参加人数	延べ53人		
事業の課題と目標			
課 題	・地域住民が身近に感じ、利用できるよう富士センターの業務を周知する必要があるがまだ不十分である。		
目 標	・地域の中核としての富士センターを地域のボランティアの手を借りて清掃、整備し、身近なコミュニティ施設をめざす。		
期 間	令和4年5月、11月	回 数	2回
場 所	富士センター入口及び敷地内建物周辺		
事業参加者への配慮等			
	・地域のボランティア、利用者、利用サークル、団体にも呼びかけ事前に準備した草花の植え付け、除草等の共同作業を通じてお互いのコミュニケーションを図り、富士センターの存在を認識してもらう。		
事業の成果（課題や目標に対して）			
	・プラランターやセンター入口の植え付けとセンター周りの除草を行った。共同作業で参加者同士のつながりを深めると共に、季節の草花が富士センターを彩り、来館者の目を楽しめた。 ・センターが綺麗になり、清潔感がでた。		
備 考			

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	5月23日	・富士センターの休館日を利用して、職員及び地域のボランティアの皆さんが協力して、建物周りの清掃、樹木の剪定、プラランター及びセンター入口花壇のくさはなの植え替え作業を実施。 参加人数 29人	・共同作業を通じ、住民間の結束と富士センターの存在の意義を認識する。
2	11月14日	・富士センター入口、建物周りの草取りやプラランターへの花植え作業を職員やボランティアの皆さんと共に実施。 参加人数 24人	・定期的に実施することにより、富士センターへの愛着心を持ってもらい、職員を覚えてもらう。

事業活動

事業名	音楽鑑賞会		
対 象	市内在住者		
参加人数	延べ18人		
事業の課題と目標			
課 題	・コロナ禍で活動が制限され、ストレスを抱えている人が多い。 ・静かに音楽で心を癒し、ゆっくり過ごす機会があまりない。		
目 標	・音楽を聴いて、穏やかでゆっくりした時間を過ごしてもらう。 ・音楽を聴くことで、心を癒し、日頃のストレスを解消してもらう。		
期 間	令和4年5月～令和5年2月	回 数	4回
場 所	老人憩いの家		
事業参加者への配慮等			
・音楽を聴いて、穏やかでゆっくりした時間を過ごしていただけるよう、あまり干渉せず、写真撮影なども極力控えるようにする。 ・リクエストに応じ、曲を流す際は、リクエストされた方から曲への思いなどがあれば語っていただき、みんなで曲への思いを共有して、楽しんでもらう。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・音楽を聴いて、穏やかでゆっくりした時間を過ごしていただいた。 ・リクエスト曲を流して、曲への思いなどがあれば語っていただき、みんなで曲への思いを共有して、楽しんでいただいた。			
備 考			

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	5月29日	音楽を流して、ゆっくりした時間を過ごしてもらう。また、リクエストしていただきながら、曲への思いを共有して、楽しんでもらう。 参加人数 4人	・音楽を聴いて、ゆっくりした時間を過ごして、日頃のストレスを解消してもらう。
2	8月28日	・音楽を流して、ゆっくりした時間を過ごしてもらう。今回は懐かしの昭和歌謡を中心にリクエストに応じて、様々な楽曲を流す。 参加人数 4人	・音楽を聴いて、ゆっくりした時間を過ごして、日頃のストレスを解消してもらう。
3	11月27日	・音楽を流して、ゆっくりした時間を過ごしてもらう。また、リクエストしていただきながら、曲への思いを共有して、楽しんでもらう。 参加人数 4人	・音楽を聴いて、ゆっくりした時間を過ごして、日頃のストレスを解消してもらう。
4	2月26日	・音楽を流して、ゆっくりした時間を過ごしてもらう。また、リクエストしていただきながら、曲への思いを共有して、楽しんでもらう。 参加人数 6人	・音楽を聴いて、ゆっくりした時間を過ごして、日頃のストレスを解消してもらう。

事業活動

事業名	憩いのサロン		
対 象	市内在住 概ね65歳以上		
参加人数	延べ107人		
事業の課題と目標			
課 題	・ひとり暮らしで生活にメリハリがなくなったり、コロナ禍で家に閉じこもりがちが高齢者が増えている。		
目 標	・仲間・居場所をつくり、閉じこもりを防ぐ。		
期 間	令和4年4月～令和5年3月	回 数	10回
場 所	休養室2		
事業参加者への配慮等			
・和室での開催だが、椅子とテーブルを用意している。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
・色々な話題で盛り上がり、会話を楽しんでいる。			
・少しづつではあるが、新しい参加者が増えている。			
備 考	・今のところ談話のみとなっているが、コロナが治まってくれば、内容は色々考えたい。		

事業報告

No	日 程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	4月26日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数10人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。
2	5月24日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数11人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。
3	6月28日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数12人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。
4	7月26日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数11人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。
5	9月27日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数10人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。

学習報告

No	日 程	学習主題・内容・方法等	事業のねらい
6	10月25日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数11人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。
7	11月22日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数11人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。
8	1月24日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数9人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。
9	2月28日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数12人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。
10	3月28日	おしゃべりをしたり情報交換をしたり、楽しく過ごしてもらう。 参加人数10人	楽しく有意義な時間を過ごす。 仲間・居場所を作る。 地域でのつながりを感じ、気軽に社会参加できる場をつくる。

事業活動

事業名	ふじっこダイニング		
対 象	市内在住小中学生		
参加人数			
事業の課題と目標			
課 題	・ 定期的な食事が摂れない子どもや、一人で食事をする子ども達とのコミュニケーションを図れる環境を作る。 ・ 地域ボランティアとの触れ合いを通して、社会教育の推進を図る。		
目 標	・ 大勢での食事を楽しむ。 ・ 参加する子ども達が自発的に挨拶や感謝の気持ちを表現できる雰囲気を作る。 ・ 栄養バランスを考えながら子ども達が好むメニューを作る。 ・ 食事をしながら子ども同士やボランティアとのコミュニケーションを楽しむ。		
期 間		回 数	
場 所			
事業参加者への配慮等			
事業の成果（課題や目標に対して）			
備 考			
・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止			

事業活動

事業名	シニア食堂		
対 象	市内在住 70 歳以上		
参加人数			
事業の課題と目標			
課 題	・地域住民が気軽に集う場が少ない。 ・一人暮らしの高齢者が増え、大人数で食事をする機会が減っている。		
目 標	・外に出る機会を作り、多くの人と食事する場を設ける。 ・食事を通じて、地域住民の交流を図る。		
期 間		回 数	
場 所			
事業参加者への配慮等			
事業の成果（課題や目標に対して）			
備 考			
・新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止			

事業活動

事業名	子ども居場所づくり（早朝預かり）		
対 象	第三小学校 低学年児童		
参加人数	0人		
事業の課題と目標			
課 題			
・ 児童の登校前に出勤しなければならない勤労世帯にとって、児童を一人家に残すことへの不安がある。			
・ 学校と地域団体が連携する機会があまりない。			
目 標			
・ 登校前の児童を預かることにより、児童の安全を確保し、勤労世帯が安心して働きに行けること。			
・ 早朝預かりにより、学校と地域団体の連携が図れること。			
期 間	令和4年4月～令和5年3月	回 数	随時
場 所	児童ルーム		
事業参加者への配慮等			
・ 常にボランティアと一緒に行動し、子どもの安全を最優先する。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
備 考			
・ 令和4年度実績なし			